

# なぜトランプは、FBI 長官コーミーの解任を強いられたのか？

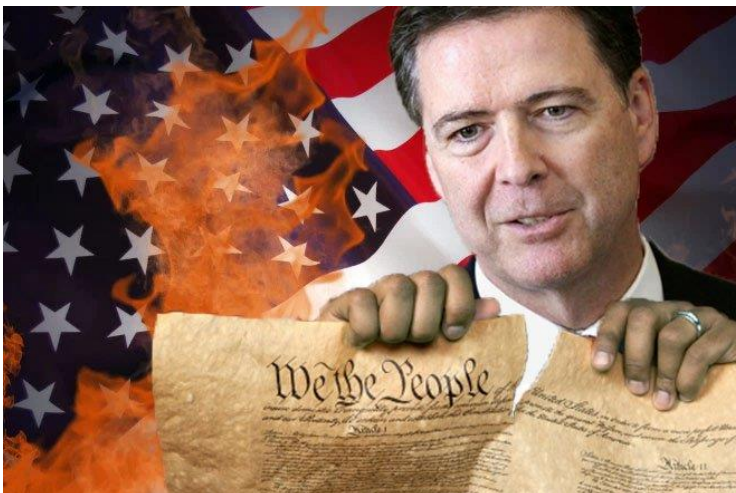
なぜなら彼は「泥沼の清掃」をしなかったからだ！

【訳者注】SOTN は前から、ワシントンで最も腐敗した悪人はコーミーであると言ってきた。トランプが就任して最初になすべきことは、この男の追放だった。それが今ごろになって追放したために問題が大きくなり、却って彼自身が、ありもしない疑惑をかけられることになった。この論説はトランプに対するきわめて厳しいが、しかし愛のムチのように読める。ニュースを聞いただけでは何のことかわからない、この出来事の解明から、ワシントンの現状全体がわかってくる。特に、トランプ家庭で起こっていると思われることを、NWO 活動家全体に共通する背景において説明しているところ（最後の太字の部分）は、なるほどと思わせる。

SOTN (State of the Nation)

May 10, 2017

そして、泥沼の中でも最も危険な怪物 **Comey** は、まともに彼に襲いかかろうとしていた。



FBI長官 **James B. Comey** は、アメリカの法の原則を破壊した男だった。したがってトランプは、就任初日に彼を除くべきだった。コーミーは連邦捜査局に、修復不能の損傷を与えていた。とはいえ、このタイミングの悪さのために、コーミーの解任が曖昧な疑惑に包まれてしまったのを、責めることできない。

国家の法執行官トップであるジェームズ・B・コーミーは、昨日、ドナルド・トランプ大統領によって、不名誉にも FBI をクビになった。コーミーが追放されたのは、彼が憲法違反、公務員法違反、国家反逆と考える人さえいる大犯罪、そういった一連の、類を見ない違法行為を働いた挙句のことであった。(参考「FBI 内の反逆罪：アメリカ法執行機関の最高レベルの逆賊たち」 <http://stateofthenation2012.com/?p=41996>)

さまざまな法の専門家が、前 FBI 長官は、ヒラリー・クリントンや民主党の犯した犯罪騒ぎを、積極的に隠ぺいしたと主張している。見たところ、コーミーは、クリントン犯罪一家のインサイド・マンのようだ。インサイド・マンを戦略的に任命するのに、FBI 長官以上の職責があるのか？

「James B. Comey: ブッシュ - クリントン犯罪家族のインサイド・マン」

<http://stateofthenation2012.com/?p=42070>

FBI でのコーミー独裁の任期は、アメリカの法執行機関の歴史で、最も破壊的だったという事実については、すでに多く書かれ、また将来も書かれるだろう。彼のいろんな記者会見や議会公聴会での、呆れるような傲慢や思い上がりを見ているだけでも、法に従うほとんどの市民にとって、耐えがたいものだった。クリントン犯罪シンジケートの、止めどもない犯罪騒ぎに対する彼の自分勝手な黙殺は、**白昼堂々**と行う共犯として、卒倒するほどであった。

結局、最後には、コーミーは、アメリカの法の原則を完全に破壊することに成功した。彼は連邦法執行の誠実性と FBI の信用を、修復できないほどに破壊してしまった。そして全国的に、自分たちの法執行機関へのアメリカ人の信頼を、覆してしまった。

**コーミーはクビにすべきであった、しかしトランプは行動が遅すぎた**

コーミーの破壊的なリーダーシップの、この正しい理解があるなら、どうしてトランプ大統領が、このような連続的なヘマをすることができたのか、理解することができない――

まず初めに、トランプは大統領としての最初の仕事として、FBI 長官コーミーを解任すべきあらゆる理由があった。彼は自分が果たすように選ばれた、その仕事を果たさなかった。それどころか彼は、自分がコーミーを信頼しているという、政治的ショーを このように行った。この判断の深刻な誤りが、トランプ就任の最初の 100 日プラスを通じて繰り返し証明された。 <http://stateofthenation2012.com/?p=72398>

第 2 に、コーミーは、彼の行ったあらゆる個別の公的宣言ごとに、ますます自分の極端

な政治的党派性とその態度を示していただけだった。もっと重要なことは、彼の継続的な、不法な行動と勝手な怠慢行為は、彼が FBI 長官として職責が履行できないことを証明していた。要するにコーミーは、警察官よりも犯罪者に、遥かに近い者に見えた。にもかかわらず、トランプは、まずいことに、彼を国家の法執行機関の高い席につかせたままだった。

**第 3** に、どう見ても、トランプがコーミーをクビにしたのは、この FBI 長官が、議会や、彼を操る者たちに利用されて、ニセのロシア陰謀に乗じて、2016 年の選挙結果の変更を、合法化しようとしていることが明らかになった後であった。事実の問題として、コーミーの最近の、5 月 3 日の上院裁判委員会での証言は、ねつ造されたロシアのハッキングという非難の背後の真実を、懸命に攻撃するものだった。数名の委員会メンバーをひいきする、彼の見え透いた態度や、ロシアに対するつくられた疑惑をもっともらしくする、明らかな作り事は、人を呆然とさせるものだった。明らかなニセ情報を、リンゼイ・グレイラム、リチャード・ブルーメンタールのような、隠れもない戦争売りつけ屋の上院議員に吹き付けることによって、コーミーは、彼らの危ない戦争レトリックをしっかりと援護した。 <http://stateofthenation2012.com/?p=72373>

コーミーの、ロシアをめぐる根拠のない主張を考えれば、彼は、社会に対する脅し、世界平和に対する脅威と考えなければならない。昨年 7 月 5 日の記者会見で、彼が「FBI は、クリントンの E メール調査に犯罪性を認めない」と言って以来、コーミーはどこまでも落ちていった。彼は、憲法を踏みにじる異常な意欲を示し、連邦法や合衆国刑法典を切り刻み、一般に認められた原則やアメリカの法執行の手続きを無視してきた。要するに、コーミー長官は、彼の前には例のなかった“ならず者”になった。

<http://stateofthenation2012.com/?p=72376>

「FBI 長官コーミーがならず者を演ずる——アメリカの法の原則を破壊」

<http://stateofthenation2012.com/?p=69744>

## 感覚がものを言う

この複雑で入り組んだ人事判断の場合には、感覚あるいは間違っただけの感覚を修正することはできない。トランプ・チームは、コーミーの FBI での登用に関して、決然とかつタイムリーに行動しなかったことによって、実質的にやり方を誤って、そのような感覚を誇張してしまった。その結果、議会全体が今、トランプによるコーミーの解任のタイミングの間違いを、さらに追及することになったのは理解できる。例えば——「Politico による、トランプがジェームズ・コーミーをクビにした本当の理由」 <http://stateofthenation2012.com/?p=72386>

間違いなくコーミーはクビにされるべきだった。しかしトランプはそれを、ホワイトハウスに入った 1 日目に決行すべきだった。上に述べたあらゆる理由によって、コーミーは自分が時限爆弾であることを証明していた。だがそれは、これほどの激しい——特にトランプ自身の党による——激しい非難の投げつけになる必要はなかった。共和党の戦争売りつけ屋どもは、コーミーを利用して、ロシアとの戦争の詐欺的口実を作りつつあった。民主党も同様に、コーミーを利用して、“ロシアの手による”クリントンの画期的敗北という、彼らのニセ物語を確認しつつあった。

トランプが、コーミーの見え透いたウソや騙しを考えて、彼をクビにしなかったとしたら、大統領のこの無為は、遅かれ早かれ彼を捕まえたことであろう。だからコーミーは絶対にクビにすべきだった。トランプにとって不幸なことに、現在、コーミーの追放は、この政権が、完全にイカサマのロシアの調査を、邪魔するか、隠ぺいしているように見えることである。

この全体的な崩壊は、もしトランプが就任の初めに、しかも正当な理由で、コーミーの独裁をやめさせていたら、避けることもできたであろう。それは適切で名誉ある処置であった。

“代替右翼”全体が、2016 年半ばから、コーミーの追放を要求していた。このことから、コーミーの個人的アドバイザーは、明らかに、彼にろくに奉仕しなくなっていた。

## トランプは“泥沼清掃”を強いられた

ドナルド・トランプ候補は、いろんな機会に“泥沼（排水）清掃”を約束していた。彼はその実行を怠っただけでなく、そこを戦争売りつけ屋や逆賊、泥棒や人殺しで、一杯にしてしまった。

コーミーをめぐるこの非常に不安な難局が生じたのは、彼が約束を破ったため、特にこの泥沼の約束を破ったためである。彼の忠実な支持層は、キャンペーン期間中は、その言葉通りに彼を信じ、彼は大口で彼らをこき下ろした！ 泥沼の怪物たちが今、あらゆる層の執行部門を占めている。（例：「ペドゲイト：Alex Acosta の労働長官への任命は拒否されねばならない」<http://stateofthenation2012.com/?p=68670>）

顔をそむけてなならない——これほど多くの重要な約束を破って、済まされる者は誰もいない。奇妙なことに、あらゆる事情が共謀して、このアメリカ大統領が、約束を守らなければならなかったことを示している。彼がホワイトハウスに入ったとき、トランプは、彼をその地位につけた“最高の権力”の仕掛ける、いろんな企みや計略に、特別、弱くなっていた。それらの一つひとつは、トランプがより高いメッセージに対し、最も心を開いているときに

実行することができ、またそうされるであろう。

### ドナルド・J・トランプ大統領への特別メッセージ：

もしあなたが、あなたを信頼して支持した人々に、ある約束をし、それを破るなら、まさに今、DCで起こっているようなことを、あなたは経験しなければならない。したがって、未来の困惑や混乱を避ける唯一の方法は、単純に“泥沼を清掃する”ことである。コーミーのような泥沼のヌシは、存在するだけの値打もない。他にも多くの、トランプ政権を破滅させようとする者たちが、まだ主要な地位についている。だから気を付けよ、そしてあくまでも、あなたの最も神聖な約束だった“泥沼の掃除”を実行せよ。（これはあなたの言葉だ、我々のではない！）

### 結論：

ドナルド・トランプが、コーミー長官と、この政権を倒そうとする彼の潜在可能性について、深く見誤っていたことは間違いない。

これが、コーミーの性格を彼がひどく間違って判断したためか、それとも彼の政治的な腹心によって馬鹿げた忠告をされたためか、どちらにせよ、トランプ・チームは、肝心の時に大きなヘマをやってしまった。ホワイトハウス・アナリストの中には、このような災難の動きは、シオニスト受託者のジャレド・クシュナーが、故意に計画したものではないかと疑う者さえいる。結局のところ、このトランプの義理の息子は、そもそもの初めからトランプに絶大な影響を及ぼした、骨の髄からのグローバリストなのである。

不案内な人たちのために言っておくと、ネオコン・グローバリストは、1917年のロシア革命のときの、ボルシェビキに非常によく似た活動をしている。NWOグローバリストは、誰に対しても（家族を含め）、何に対しても（国家を含め）、忠誠を誓うものを持たない。ただ、彼らの大いに間違ったNew World Orderのアジェンダを推進するものだけが、例外である。同様に、彼らは、One World Government（NWOと同じ）の実現という彼らの計画に役立つものなら、どんな個人でも組織でも利用するであろう。

トランプが登場するのはまさにここである。このテーマは、更に次のエッセーで発展される予定である——タイトル：「トランプが、アメリカのヒトラーとして仕立てられている、“ライシュターク・ファイア”（1933年、ナチス初期の国会議事堂放火事件）がすでに計画されている」

#### 編集者注：

トランプ党に危険な攻撃を仕掛けた最初の“泥沼の怪物”が、ジェームズ・B・コーミーという名の、6フィート8インチのフランケンシュタインであったことは、不思議ではあるまい。実際、文字通り虚空から物語をつくり出し、証拠をねつ造するFBI長官ほど、怖い者はいない。すべてのトランプの敵たちは、コーミーが熱烈に彼らの主張を取り上げて、存在しないロシアの選挙ハッキングに関係する、ウソの主張によってトランプ・チームに汚名を着せようとして以来、口角に泡を蓄えて勇み立っていた。もし、コーミーとその仲間による調査が、自然に進行するのに任せられていたら、ロシアとの陰謀（による扇動）という罪状で、間違いなくトランプは弾劾されていただろう。

#### 推奨される読み物：

「コーミーは宣誓して、ウソをつき、議会を騙そうと試み、何十年ものFBIの伝統を覆し、プライムタイムを使ってアメリカ人民を裏切っている」

<http://stateofthenation2012.com/?p=42289>